

## 2003 年度 委員会活動成果報告

( 2000年 2月 27日作成 )

委員会名	連続体構造小委員会	主 査 名：登 坂 宣 好
所属本委員会 (所属運営委員会)	構造委員会 (シェル・空間構造運営委員会)	委員長名：西 川 孝 夫 主 査 名：坂 壽 二
設 置 期 間	2000年 4 月 ~ 2004年 3 月	
設 置 目 的 各年度活動計画	シェル・空間構造物を連続体構造として捉え解析し設計するために必要な知見を調査・研究し、今後の連続体構造物の解析および設計に対し参照可能な形式として整理する。	
委員構成 (委員名(所属))	登坂宣好(日大)、高山誠(金沢工大)、青木繁(法政大)、國枝治郎(京大)、倉田光春(日大)、新宮清(日大)、坪井善隆(法政大)、西村敏雄(日大)、真下和彦(東海大)、松岡理(名大)、松永裕之(摂南大)、三井和男(日大)、皆川洋一(鹿児島大)、村田賢(名城大)、山田聖志(豊橋技科大)	
設置 WG (WG 名：目的)		
2003 年度予算	100000 円	

項 目	自己評価
委員会活動状況 (開催日・参加人数)	平成15年4月より、予てから本小委員会として収集し整理すべき西村研究室(日大理工)の貴重な実験データのまとめを西村委員に依頼した。その資料の1次案が平成15年12月に提出された。その1次案を精読したのちに、平成16年2月24日に委員会(5名出席)を開催し今後の資料のまとめ方について議論した。
得られた成果	<p>(成果の具体的内容、成果の学術的・技術的・社会的価値、ホームページ等での公開の有無)</p> <p>予てから本小委員会として、これまでなされてきた補強コンクリートシェル構造の破壊実験に関する多くの貴重なデータを収集することの必要性の認識のもとに「補強コンクリートシェル破壊実験資料集」を2003年3月にまとめ、それを第2回新「シェル・空間構造」セミナー資料として刊行することが出来た。</p> <p>この資料集には、西村研究室(日大理工)の貴重な実験データが含まれていなかったため、本小委員会としては、資料集の充実を図るために西村委員にデータのまとめを依頼した。提出されたデータに対して、本委員会での討議を行い、さらに必要な項目に対するデータの充実を図っていただくことにした。</p> <p>したがって、本小委員会の今年度の得られた成果は、合計49体の円筒シェル、HPシェル、円錐台に関する補強コンクリートシェル破壊実験資料の1次案の作成である。今後、新小委員会としてこの1次案を充実しその公刊を考える。</p>
目標の達成度	<p>(当初の活動計画と得られた成果との関係)</p> <p>本小委員会の設置期間内に、これまで我が国でなされた補強コンクリートシェル破壊実験資料を選定された項目に関して整理し、今後の補強シェル構造の解析、特に数値解析に対する有効な実験値を提供することと実際設計の参考に供するために“資料集”として公刊することを目標にしてきた。しかし、“得られた成果”にも記したように完全な形式としてではなく、一部未収録としてしか公刊されなかった。未収録部分の資料集のまとめは引き続き2004年4月から設置される新小委員会で継続することとした。</p>
その他評価すべき事項	